

SP600N

ジンバル付きGPSドローン

取扱説明書

飛行する前に取扱説明書をよく読み、将来の使用のために大切に保管してください。

コンテンツ

免責事項と安全ガイド	01
メンテナンス	03
製品概要	04
飛行準備	06
飛行操作ガイド	09
送信機操作ガイド	09
Mode 2の場合	09
ドローンと送信機のペアリング	09
フライトキャリブレーション	11
1. コンパスキャリブレーション	11
2. ジャイロキャリブレーション	12
GPS衛星の検索	13
モバイル機器への接続	14
APPのダウンロードとインストール	14
APPを起動	15
飛行指示	16
離陸	16
飛行方向	17
写真/ビデオ	18
カメラ角度の上下調整	19
スピード変更	19
ヘッドレスモード	20
高度維持	21

リターンホーム (RTH)	22
スマートRTH	22
フェールセーフRTH	23
低電RTH	24
着陸	25
Mode 1の場合	26
ドローンと送信機のペアリング	26
フライトキャリブレーション	27
GPS衛星の検索	29
モバイル機器への接続	30
飛行指示	32
APP操作ガイド	42
アプリの機能概要	42
設定	43
離陸	44
目標点のサークルフライ (POI)	44
マークと追跡	46
フォロワーミー	47
ウェイポイント	47
写真/ビデオ	49
ジェスチャー写真/ビデオ	50
スマートRTH	50
着陸	50
トラブルシューティング	51
仕様	53

▶ 免責事項と安全ガイド

ご使用前に免責事項をよくお読みください。本製品を使用することにより、お客様は本文をよく読み、同意したものとみなされます。

1. 飛行前には、類似のドローンを使用して練習するか、専門家の指導を仰いでください。
2. 障害物、人混み、開放水域、公道、高圧送電線、樹木の上や近くを飛行しないでください。



3. 雨や強風（風速5.5m/s以上）、雪、ひょう、落雷、竜巻、ハリケーンなどの悪天候時には、ドローンを使用しないでください。



4. 電磁妨害区域、電波妨害区域、政府が定めた飛行禁止区域ではドローンを飛行させないでください。



5. 急速に回転するモーターやプロペラは、重大な損傷や怪我を引き起こす可能性があります。ドローン进行操作する際には、5mの安全な距離を保つようにしてください。責任を持って操作してください。



6. 電源を入れた後は、常にドローンを視界の範囲内に入れておいてください。カメラの画像を頼りにドローン进行操作してはいけません。



7. 本製品は玩具ではありませんので、14歳未満の方にはお勧めできません。



8. 窒息の危険を避けるために、すべての部品を子供の手の届かないところに保管してください。



9. 注意事項：ドローンやバッテリーの廃棄は、地域の法規制に従ってください。家庭ごみとして扱わないでください。



10. すべての現地規制の遵守を確保し、適切な認可を取得し、リスクを理解してください。すべてのフライト規定に従うことは、お客様の全責任となりますのでご注意ください。

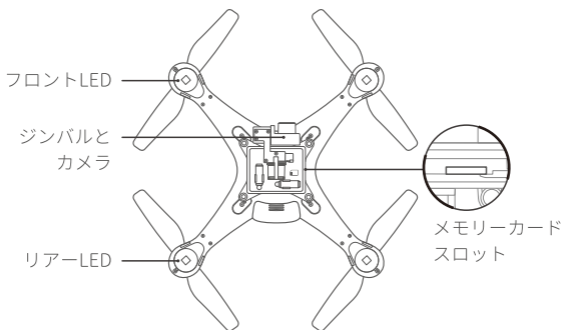
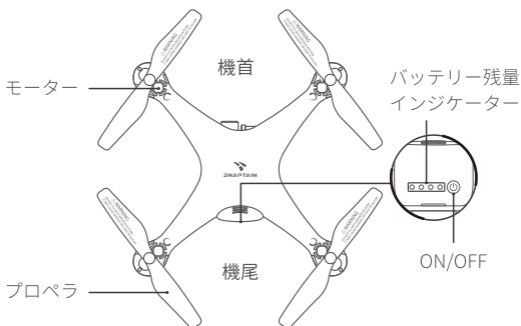
SNAPTAINは、本製品の使用により直接または間接的に生じるいかなる損害、傷害、責任についても一切の責任を負いません。SNAPTAINは、本ユーザーマニュアルを更新する権利を有します。

▶ メンテナンス

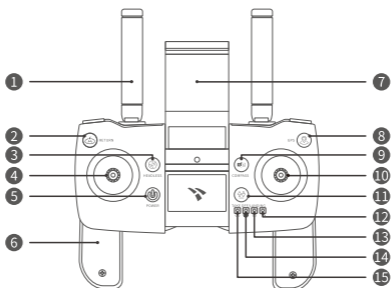
1. 落下や激しい衝撃を受けた後は、ドローンを慎重に点検しましょう。
2. 火気（着火源）の近くでバッテリーを使用したり、保管したりしないでください。
3. バッテリーの温度が高いときは、充電しないで先に冷やしてください。
4. ベッド、カーペット、木製の床、導電性の表面などの可燃性物質のそばでは充電しないでください。充電中はバッテリーを放置しないでください。
5. 付属のオリジナル充電ケーブルのみを使用してください。バッテリーが完全に充電されたら、充電器のプラグを抜いてください。
6. ドローンを長時間使用しない場合は、バッテリーを取り外してください。
7. ドローンや送信機は、直射日光の当たらない、涼しく乾燥した場所に保管してください。
8. 電子機器に湿気が入らないように、乾いた布でドローンを清掃することを確認します。
9. 自分で分解や修理をしないでください。詳しくはSNAPTAINまでお問い合わせください。
10. バッテリーは弊社が用意しているオリジナルのものをご使用ください。間違ったタイプのバッテリーを使用すると、火災の危険性があります。
11. 爆発の原因となりますので、電池を火やストーブの中に放り込んだり、切断したり、機械で圧迫したりしないでください。
12. 爆発を起こしたり、可燃性の液体やガスが漏れたりする恐れがありますので、バッテリーを高温にさらさないでください。
13. 爆発の原因となったり、可燃性の液体やガスが漏れることがありますので、バッテリーを極端に低い空気圧にさらさないでください。

▶ 製品概要

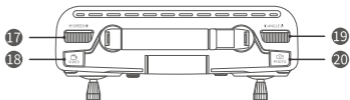
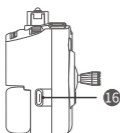
SP600Nドローン



送信機



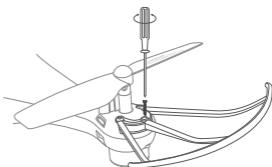
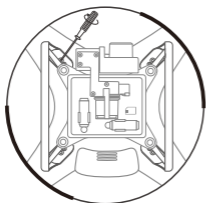
- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① アンテナ | ⑨ コンパスキャリブレーション
(長押し) |
| ② スマートRTH | ⑩ 右手スロットル |
| ③ ヘッドレスモード | ⑪ ワンキー離陸/着陸 |
| ④ 左手スロットル | ⑫ スピード指示灯 |
| ⑤ ON/OFF | ⑬ 写真/ビデオ指示灯 |
| ⑥ 送信機ハンドル | ⑭ ヘッドレスモード指示灯 |
| ⑦ 携帯電話ホルダー | ⑮ RTH指示灯 |
| ⑧ GPSモード On/Off (長押し) | |



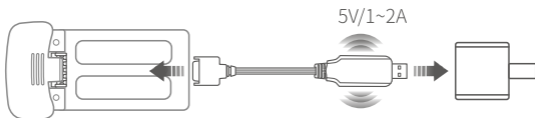
- | | |
|----------|--------------|
| ⑬ 充電ポート | ⑲ カメラ角度の上下調整 |
| ⑭ スピード変更 | ⑳ 写真 |
| ⑮ ビデオ | |

▶ 飛行準備

1. 着陸装置と保護カバーをドローンに取り付け、ネジを締めます。



2. ドローンのバッテリーを充電します。



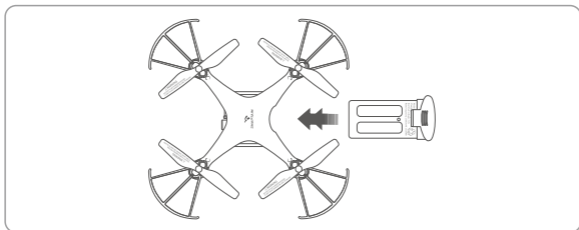
充電中：赤色 LED

充電完了：緑色 LED

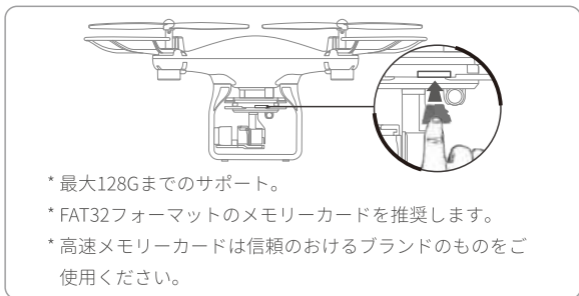
⚠️ ご注意：

- 1 バッテリーとUSBケーブルは、弊社が用意したオリジナルのものをご使用ください。
- 2 爆発や火災を避けるために、バッテリーを貫通する可能性のある鋭利なものから遠ざけてください。
- 3 パソコンのUSBポートを使用しての充電はお勧めしません。
- 4 低温環境下では飛行時間が短縮される場合があります。
- 5 バッテリーの寿命を延ばすために、長期間使用しない場合は少なくとも3か月ごとに1回充電してください。

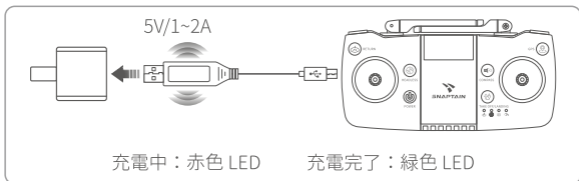
3. 充電完了になったら、ドローンにバッテリーをセットします。



4. ドローンにメモリーカード（別売）を挿入します。

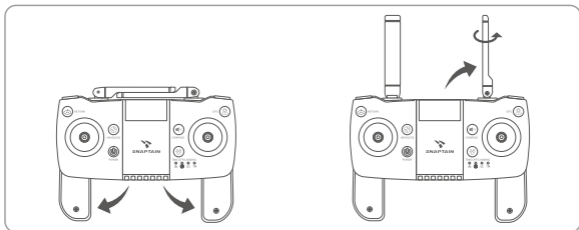


5. 送信機を充電します。

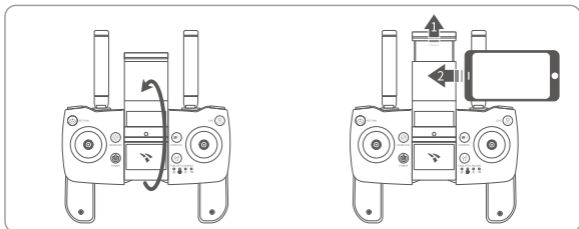


* 送信機のバッテリー状態は、スマホアプリSnaptain Atlasで確認できます。送信機のバッテリー残量が少なくなると、ピープ音が鳴り続けます。

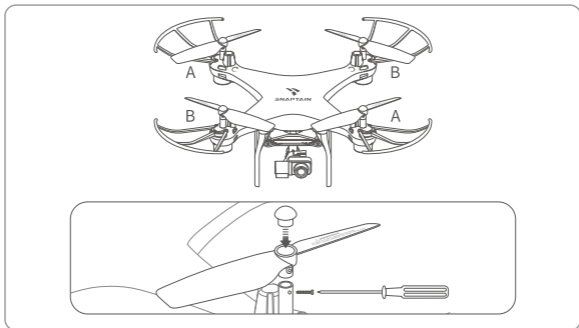
6. 「送信機ハンドル」と「アンテナ」を広げます。



7. 「携帯電話ホルダー」を広げて、モバイルデバイスをマウントします。



8. 必要に応じてプロペラを交換します（オプション）。



- ① プロペラのキャップを外します。
- ② ネジを緩めてプロペラの羽根を外します。
- ③ 予備のプロペラを背面のマーク (A/B) に合わせてドローンにセットします。
- ④ ネジを締めてキャップを取り付けます。

▶ 飛行操作ガイド

i 重要：

- * 各フライト中に送信機の電源が入る前にドローンの電源が入っていることを確認してください。
- * ドローンまたは送信機を再起動するたびに、ペアリング手順を繰り返します。
- * すべての飛行機能とモードでは、操縦者とドローンの尾翼の位置が揃わなければなりません。
- * 初心者は広い場所の制御範囲内でドローンを飛ばすことをお勧めします。

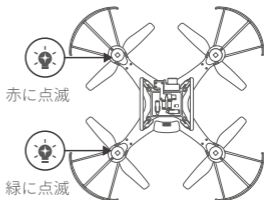
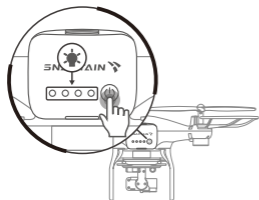
送信機操作ガイド

Mode 2の場合

ドローンと送信機のペアリング

ステップ1：

4つの「バッテリーインジケーター」が点灯するまで「ON/OFF」ボタンを約3秒長押しすると、ドローンの電源が入ります。ドローンの電源を入れた後、フロントインジケーターが赤色に点滅し、リアインジケーターが緑色に点滅します。ドローンの頭部を前方に向けて水平面に置きます。

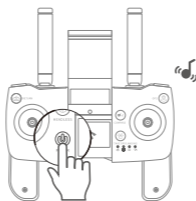


💡 ヒント：

「ON/OFF」ボタンを長押しすると、ドローンがオフになります。

ステップ2：

「ON/OFF」ボタンを押して送信機をオンにすると、送信機からピープ音が鳴ります。

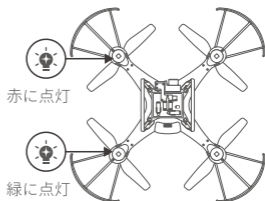
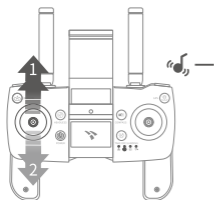


💡 ヒント：

もう一度「ON/OFF」ボタンを押すと、送信機の電源が切れます。

ステップ3：


「左手スロットル」を上に向かって前に押し出し、下に向かって引き下げます。送信機から長いピープ音が聞こえたら、ドローンと送信機のペアリングが成功したことになります。この時点でドローンのフロントインジケータが赤色、リアインジケータが緑色に点灯します。

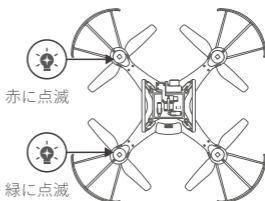
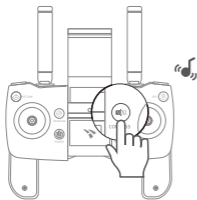


フライトキャリブレーション

1. コンパスキャリブレーション（本体のGPSに正しい方角を認識させること）

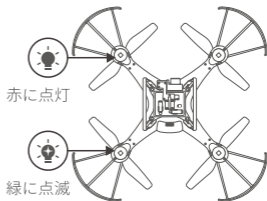
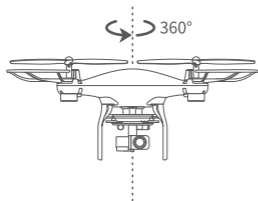
ステップ1：

送信機からピープ音が鳴るまで  ボタンを長押しして、コンパスのキャリブレーション（校正）を開始します。この時点で、ドローンのフロントインジケータが赤色に点滅し、リアインジケータが緑色に点滅します。



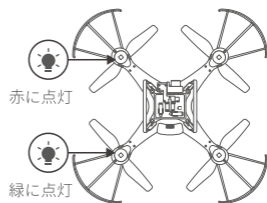
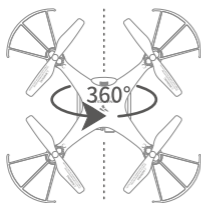
ステップ2：

ドローンを水平に持ち、送信機からピープ音が聞こえて水平校正が完了するまで、少なくともドローンを2回360度回転させます。ドローンのフロントインジケータが赤色のインジケータに変わります。



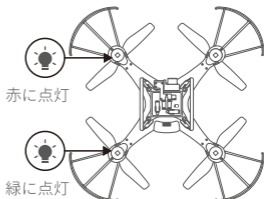
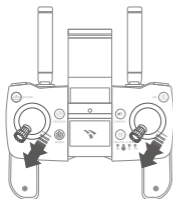
ステップ3:

機首を下に向けてドローンを垂直に持ち、送信機からピープ音が聞こえて垂直校正が完了するまで、少なくともドローンを2回360度回転させます。ドローンのリアインジケータが緑色のインジケータに変わります。



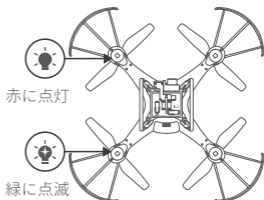
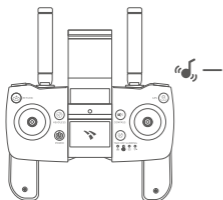
2. ジャイロキャリブレーション

コンパスのキャリブレーション（校正）が終わったら、ドローンを水平面に置きます。両方のスロットルを同時に左下に45度押しすと、送信機のピープ音が鳴ります。ドローンのフロントインジケータが赤色に、リアインジケータが緑色に点灯したらジャイロスコープのキャリブレーション（校正）は完了です。



GPS衛星の検索

ドローンが衛星を検索するのを待ってください。送信機から長いビープ音が聞こえ、ドローンのリアインジケータが緑色に点滅すると、ドローンが「GPSモード」で離陸するのに十分な衛星を検索したことを示しています。



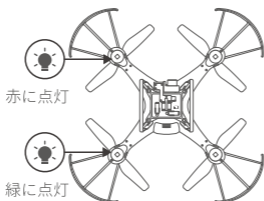
GPSモードで離陸の準備をします。

ドローンはデフォルトで「GPSモード」に設定されています。このモードでは、ドローンは、GPSモジュールを使用して自分自身を見つけ、正確なホバーフライトを実行することができます。

⚠️ ご注意：

- ① 「GPSモード」は、GPS信号が強い場合にのみ使用できます。屋外での飛行をお願いします。
- ② 初心者の方には、GPSモードを強くお勧めします。

ドローンが十分に衛星を検索しない場合は、リアインジケータが緑色のままになります。「GPSモード」でドローンを離陸させたい場合は、どこか別の場所でドローンを飛ばしてください。



GPSモードは使用できません。

「GPSモード」が利用できない場合でも、ドローンを離陸させたい場合は、「ATTIモード」に切り替えることができます(21 ページを参照)。

モバイル機器への接続

APPのダウンロードとインストール

「Snaptain Atlas」を「App Store™」または「Google Play™」からモバイル端末にダウンロードしてインストールするか、以下のQRコードをスキャンしてください。



Android 4.6以降



iOS 8.0以降

⚠️ ご注意：

Google Play™はGoogle Inc.の商標であり、App Store™はApple Incの商標である。

APPを起動

ステップ1：

モバイル端末の設定に進み、Wifi 「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」 に接続します。



ステップ2：

「Snaptain Atlas」アプリを開き、「GO」をタップして移動します。




⚠️ ご注意：

- ① ライブマップが表示されない場合は、ドローンのWifiを切断し、モバイル端末のデータ通信と位置情報サービスをオンにして、マップをプリロードします。次に、データ通信をオフにして、ドローンのWifiに再接続し、アプリを起動します。
- ② ライブマップが表示されない場合は、ドローンのWifiを切断し、モバイル端末のデータ通信と位置情報サービスをオンにして、マップをプリロードします。次に、データ通信をオフにして、ドローンのWifiに再接続し、アプリを起動します。
- ③ WifiのリストにWifi「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」がない場合や、アプリにプレビュー画像が表示されない場合は、ドローンと送信機を再起動してから、09~12ページの指示に従ってペアリングとキャリブレーションを繰り返してください。
- ④ Wifi「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」が1台のモバイル端末のみに接続されていることを確認してください。

飛行指示

離陸

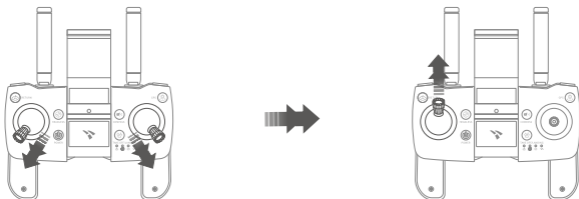
モード1：

「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押して、4つのプロペラがすべて回転し始めたら、 ボタンを短く押して離陸します。



モード2：

「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押し、4つのプロペラがすべて回転し始めたら、ゆっくりと「左手スロットル」を前方に押し、離陸します。

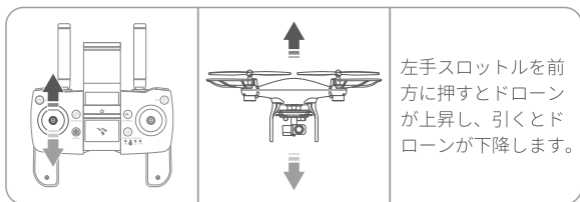


☀️ ヒント：

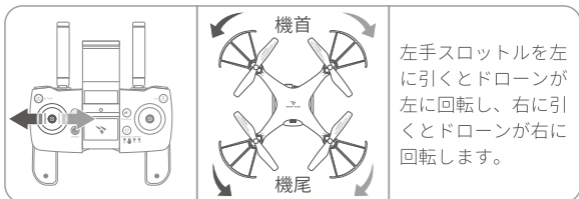
ロックを解除してもドローンを離陸させたくない場合は、もう一度、「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押し、プロペラの回転を止めます。

飛行方向

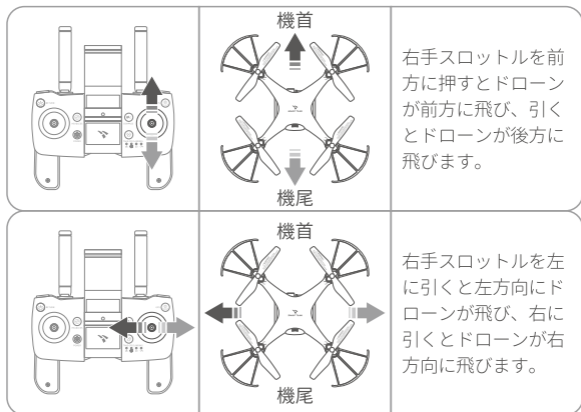
左手スロットル




左手スロットルを前方に押し、ドローンが上昇し、引くとドローンが下降します。




右手スロットル



写真/ビデオ

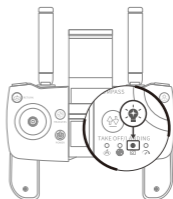
 を押して写真を撮ります。

 を押して、ビデオの録画を開始します。もう一度押すと、ビデオが停止し、モバイルデバイスとメモリカードに保存されます。

写真/ビデオ指示灯:

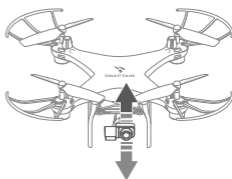
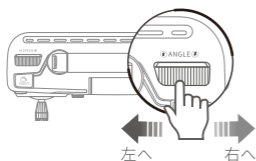
撮影：一回点滅

録画：ゆっくりと点滅



カメラ角度の上下調整

ANGLE を左に押すとカメラが上に、**ANGLE** を右に押すとカメラが下になります。

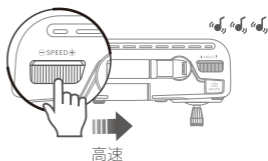
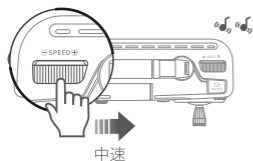


スピード変更

ドローンのデフォルトの速度は「低速」に設定されています。

SPEED を右に押すと「中速」に切り替わり、送信機のピープ音が2回鳴ります。

もう一度右に押すと「高速」に切り替わり、送信機のピープ音が3回鳴ります。



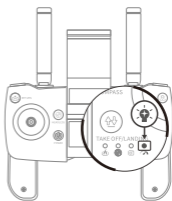
←SPEED→ を左に押すと、「中速」（2回のピーブ音）または「低速」（1回のピーブ音）に戻ります。

スピード指示灯

低速：点灯

中速：ゆっくりと点滅

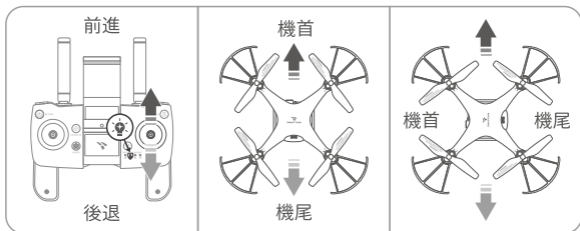
高速：素早く点滅



ヘッドレスモード

Ⓢ ボタンを押して「ヘッドレスモード」を有効にすると、送信機の「ヘッドレスインジケータ」が点滅し始めます。

このモードでは、ドローンの機首と機尾の向きに関係なく、「右手スロットル」の操作方向に合わせてドローンが飛行します。



標準モード


ヘッドレスモード

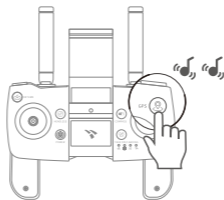
もう一度このボタンを押すと、このモードが解除されます。

高度維持

「高度維持」では、ドローンは特定の飛行高度を維持することができますが、風でドリフトします。

モード1：

離陸する前に、送信機からビープ音が2回鳴るまで  ボタンを約3秒間長押しして「ATTIモード」を有効にします。



もう一度  ボタンを長押しすると、「ATTIモード」が解除されます。

モード2：

屋外飛行中、ドローンがGPS信号が弱い場所に飛ぶと、「ATTIモード」が自動的にオンになります。

⚠️ ご注意：

- ① 「ATTIモード」では、「GPSモード」に基づく「リターン(RTH)」、「フォローミー」、「ウェイポイント」、「目標点のサークルフライ(POI)」などの機能は有効になりません。
- ② 「高度維持」は、操縦者がドローンを上手に操作できるスキルを持っている場合にのみお勧めします。

リターンホーム (RTH)

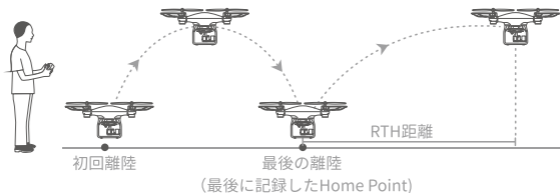
「リターンホーム (RTH)」機能により、ドローンは最後に記録された Home Point (最後の離陸地点) に戻ることができます。リターンホーム機能は、GPS信号が十分に強く、コンパスが正常に動作している場合にのみ使用でき、そうでない場合は使用できません。

スマートRTH

送信機の  を押して「スマートRTH」を起動します。

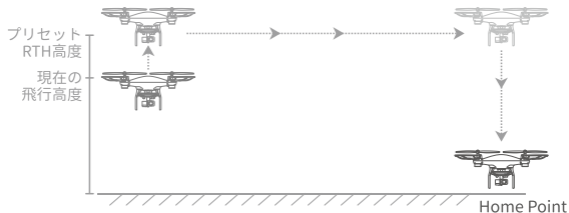
* RTH距離

ドローンが最後に記録したHome Point (ドローンが最後に離陸した場所) との距離。



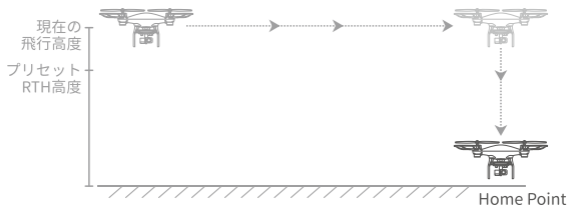
1. 現在の飛行高度 < プリセットRTH高度

ドローンはまずプリセットされた帰還高度まで上昇した後、ホームポイントの上を真っ直ぐに戻って飛行し、着陸します。



2. 現在の飛行高度 ≥ プリセットRTH高度

ドローンは現在の飛行高度でHome Pointの上空を直接飛行して着陸します。



もう一度  ボタンを押すと、RTHがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。


⚠️ ご注意：

- ① デフォルトのRTH高度は15メートルです。「Snaptain Atlas」アプリの設定内でリセットすることができます。
- ② リターン中は送信機のピーブ音が鳴り続け、「RTHインジケーター」が点滅したままになります。

フェールセーフRTH

送信機接続がドローンと切断すると、自動的に「フェールセーフRTH」が発生します。ドローンは、独自のフライトシステムの制御下で、最後に記録された「Home Point」に帰還します。


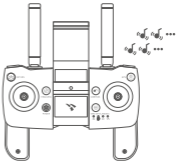
「フェールセーフRTH」は「スマートRTH」と同じプロセスです。

送信機をドローンに再接続すると、操縦者は  ボタンを押してRTHをキャンセルし、ドローンの制御を取り戻すことができます。操縦者が操作をしていない場合は、ドローンは帰還を続けます。

送信機接続がドローンと切断すると、GPS機能が利用できなくなった場合、ドローンは現在の高度から着陸するまでゆっくりと着陸します。

低電RTH

1. 「低電RTH」は、ドローンのバッテリー残量が少なくなるとトリガーされます。


	
<p>アプリ上のドローンのバッテリー状況は2つバーで表示されます。</p>	<p>送信機から連続したピープ音が聞こえてきました。</p>

ドローンが20m以下のRTH距離まで飛んできた場合は、自動的にRTHがキャンセルされます。操縦者がどのように操作を行っても、ドローンは20mを超えて飛行はできません。

⚠️ ご注意：

低電RTHをキャンセルした後は、バッテリーの消耗が激しくない限り、再び低電RTHが発動することはありません。

2. ドローンのバッテリーが著しく消耗した場合に、「深刻な低電RTH」がトリガーされます。ドローンは自動的に戻り、最後に記録された「Home Point」に着陸します。

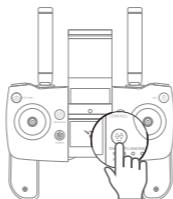
	
<p>アプリ上のドローンのバッテリー状況は1つバーで表示されます。</p>	<p>送信機から連続したピープ音が聞こえてきました。</p>

⚠️ ご注意：

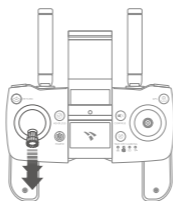
ドローンはRTH飛行中に障害物を自動的に回避することはできません。

着陸**モード1：**

 ボタンを押してドローンを着陸させます。

**モード2：**

ドローンのプロペラの回転が停止して着陸するまで、「左手スロットル」をゆっくりと後方に倒します。

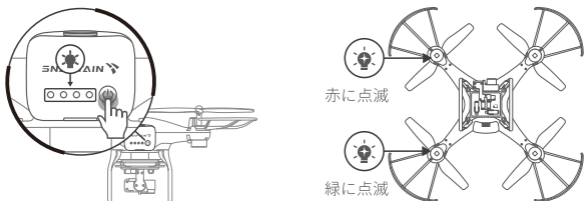


Mode 1の場合

ドローンと送信機のペアリング

ステップ1：



4つの「バッテリーインジケーター」が点灯するまで「ON/OFF」ボタンを約3秒長押しすると、ドローンの電源が入ります。ドローンの電源を入れた後、フロントインジケーターが赤色に点滅し、リアインジケーターが緑色に点滅します。ドローンの頭部を前方に向けて水平な面に置きます。

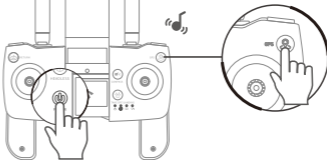


☀ ヒント：

「ON/OFF」ボタンを長押しすると、ドローンがオフになります。

ステップ2：

送信機の  ボタンを長押しして、「ON/OFF」を押して電源を入れ、送信機のピープ音が聞こえたら、 ボタンを離すと、起動に成功します。

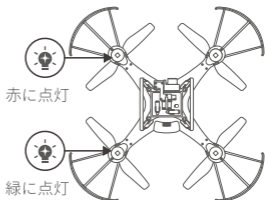
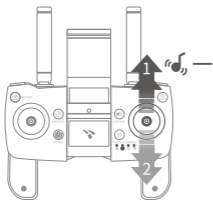


☀ ヒント：

もう一度「ON/OFF」ボタンを押すと、送信機の電源が切れます。

ステップ3：

「右手スロットル」を上に向かって前に押し出し、下に向かって引き下げます。送信機から長いビープ音が聞こえたら、ドローンと送信機のペアリングが成功したことになります。この時点でドローンのフロントインジケーターが赤色、リアインジケーターが緑色に点灯します。

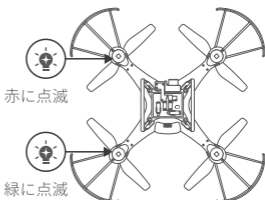
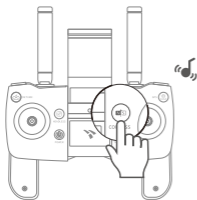


フライトキャリブレーション

1. コンパスキャリブレーション（本体のGPSに正しい方角を認識させること）

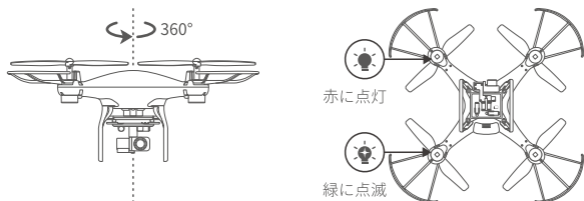
ステップ1：

送信機からビープ音が鳴るまで **OK** ボタンを長押しして、コンパスのキャリブレーション（校正）を開始します。この時点で、ドローンのフロントインジケーターが赤色に点滅し、リアインジケーターが緑色に点滅します。



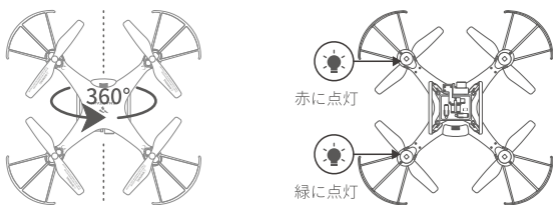
ステップ2:

ドローンを水平に持ち、送信機からピーブ音が聞こえて水平校正が完了するまで、少なくともドローンを2回360度回転させます。ドローンのフロントインジケーターが赤色のインジケーターに変わります。



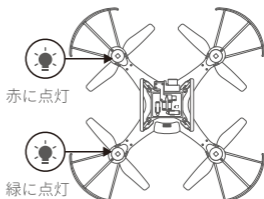
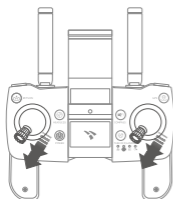
ステップ3:

機首を下に向けてドローンを垂直に持ち、送信機からピーブ音が聞こえて垂直校正が完了するまで、少なくともドローンを2回360度回転させます。ドローンのリアインジケーターが緑色のインジケーターに変わります。



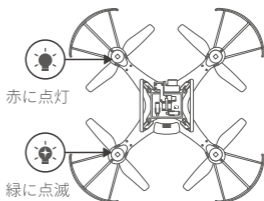
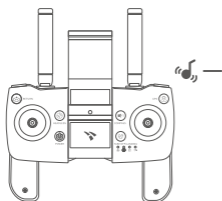
2. ジャイロキャリブレーション

コンパスのキャリブレーション（校正）が終わったら、ドローンを水平面に置きます。両方のスロットルを同時に左下に45度押しと、送信機のピーブ音が鳴ります。ドローンのフロントインジケーターが赤色に、リアインジケーターが緑色に点灯したらジャイロスコープのキャリブレーション（校正）は完了です。



GPS衛星の検索

ドローンが衛星を検索するのを待ってください。送信機から長いビープ音が聞こえ、ドローンのリアインジケータが緑色に点滅すると、ドローンが「GPSモード」で離陸するのに十分な衛星を検索したことを示しています。



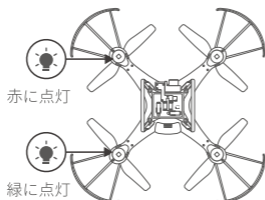
GPSモードで離陸の準備をします。

ドローンはデフォルトで「GPSモード」に設定されています。このモードでは、ドローンは、GPSモジュールを使用して自分自身を見つけ、正確なホバーフライトを実行することができます。

⚠️ ご注意：

- ① 「GPSモード」は、GPS信号が強い場合にのみ使用できます。屋外での飛行をお願いします。
- ② 初心者の方には、GPSモードを強くお勧めします。

ドローンが十分に衛星を検索しない場合は、リアインジケータが緑色のままになります。「GPSモード」でドローンを離陸させたい場合は、どこか別の場所でドローンを飛ばしてください。



GPSモードは使用できません。

「GPSモード」が利用できない場合でも、ドローンを離陸させたい場合は、「ATTIモード」に切り替えることができます(37 ページを参照)。

モバイル機器への接続

APPのダウンロードとインストール

「Snaptain Atlas」を「App Store™」または「Google Play™」からモバイル端末にダウンロードしてインストールするか、以下のQRコードをスキャンしてください。



Android 4.6以降



iOS 8.0以降

⚠️ ご注意：

Google Play™はGoogle Inc.の商標であり、App Store™はApple Incの商標である。

APPを起動

ステップ1：

モバイル端末の設定に進み、Wifi 「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」 に接続します。



ステップ2：

「Snaptain Atlas」アプリを開き、「GO」をタップして移動します。




⚠️ ご注意：

- ① ライブマップが表示されない場合は、ドローンのWifiを切断し、モバイル端末のデータ通信と位置情報サービスをオンにして、マップをプリロードします。次に、データ通信をオフにして、ドローンのWifiに再接続し、アプリを起動します。
- ② ライブマップが表示されない場合は、ドローンのWifiを切断し、モバイル端末のデータ通信と位置情報サービスをオンにして、マップをプリロードします。次に、データ通信をオフにして、ドローンのWifiに再接続し、アプリを起動します。
- ③ WifiのリストにWifi「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」がない場合や、アプリにプレビュー画像が表示されない場合は、ドローンと送信機を再起動してから、26~28ページの指示に従ってペアリングとキャリブレーションを繰り返してください。
- ④ Wifi「SNAPTAIN-SP600N-xxxxxx」が1台のモバイル端末のみに接続されていることを確認してください。

飛行指示

離陸

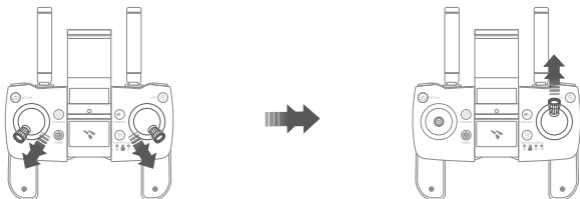
モード1：

「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押して、4つのプロペラがすべて回転し始めたら、 ボタンを短く押して離陸します。



モード2：

「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押し、4つのプロペラがすべて回転し始めたら、ゆっくりと「右手スロットル」を前方に押し、離陸します。

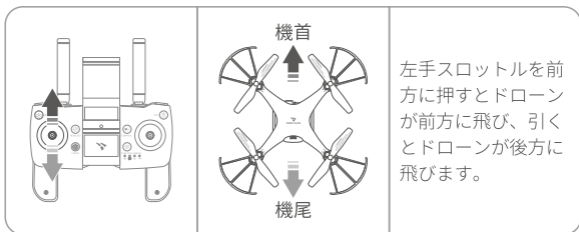


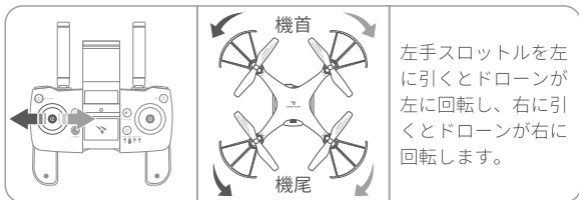
☀️ ヒント：

ロックを解除してもドローンを離陸させたくない場合は、もう一度、「左手スロットル」を左下に45度、「右手スロットル」を右下に45度同時に押し、プロペラの回転を止めます。

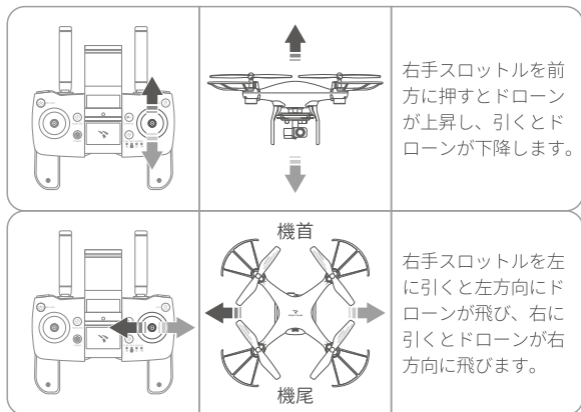
飛行方向

左手スロットル






右手スロットル



写真/ビデオ

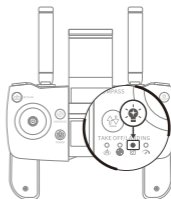
 を押して写真を撮ります。

 を押して、ビデオの録画を開始します。もう一度押すと、ビデオが停止し、モバイルデバイスとメモ리카ードに保存されます。

写真/ビデオ指示灯:

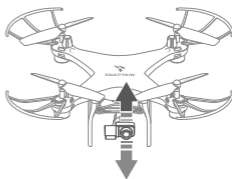
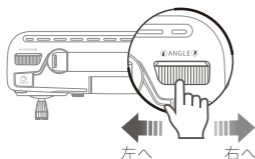
撮影：一回点滅

録画：ゆっくりと点滅



カメラ角度の上下調整

ANGLE を左に押すとカメラが上に、**ANGLE** を右に押すとカメラが下になります。

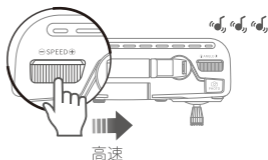
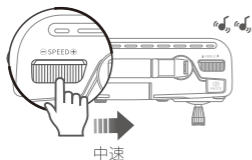


スピード変更

ドローンのデフォルトの速度は「低速」に設定されています。

SPEED を右に押すと「中速」に切り替わり、送信機のピープ音が2回鳴ります。

もう一度右に押すと「高速」に切り替わり、送信機のピープ音が3回鳴ります。



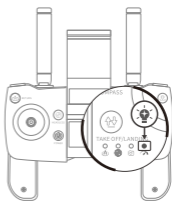
[SPEED+] を左に押すと、「中速」(2回のピープ音) または「低速」(1回のピープ音) に戻ります。

スピード指示灯

低速：点灯

中速：ゆっくりと点滅

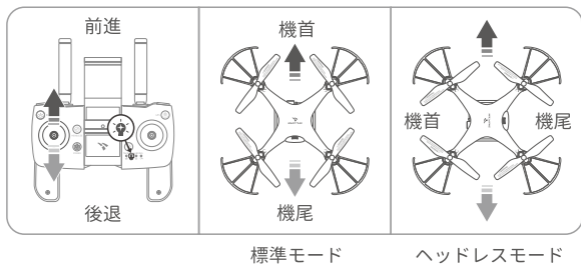
高速：素早く点滅



ヘッドレスモード

[HEADLESS] ボタンを押して「ヘッドレスモード」を有効にすると、送信機の「ヘッドレスインジケータ」が点滅し始めます。

このモードでは、ドローンの機首と機尾の向きに関係なく、「左手スロットル」によって前/後方に、若しくは「右手スロットル」によって左/右方向に飛行します。




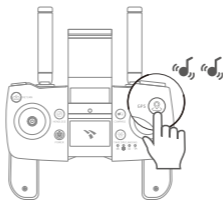
もう一度このボタンを押すと、このモードが解除されます。

高度維持

「高度維持」では、ドローンは特定の飛行高度を維持することができますが、風でドリフトします。

モード1：

離陸する前に、送信機からピープ音が2回鳴るまで  ボタンを約3秒間長押しして「ATTIモード」を有効にします。



もう一度  ボタンを長押しすると、「ATTIモード」が解除されます。

モード2：

屋外飛行中、ドローンがGPS信号が弱い場所に飛ぶと、「ATTIモード」が自動的にオンになります。

⚠️ ご注意：

- ① 「ATTIモード」では、「GPSモード」に基づく「リターン(RTH)」、「フォローミー」、「ウェイポイント」、「目標点のサークルフライ(POI)」などの機能は有効になりません。
- ② 「高度維持」は、操縦者がドローンを上手に操作できるスキルを持っている場合にのみお勧めします。

リターンホーム (RTH)

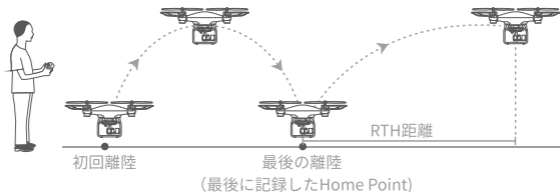
「リターンホーム (RTH)」機能により、ドローンは最後に記録された Home Point (最後の離陸地点) に戻ることができます。リターンホーム機能は、GPS信号が十分に強く、コンパスが正常に動作している場合にのみ使用でき、そうでない場合は使用できません。

スマートRTH

送信機の  を押して「スマートRTH」を起動します。

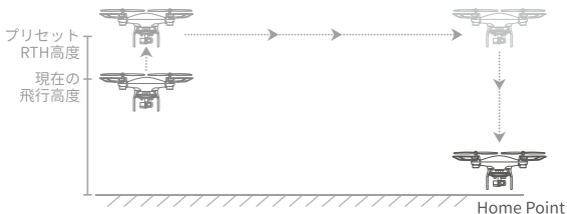
* RTH距離

ドローンが最後に記録したHome Point (ドローンが最後に離陸した場所) との距離。



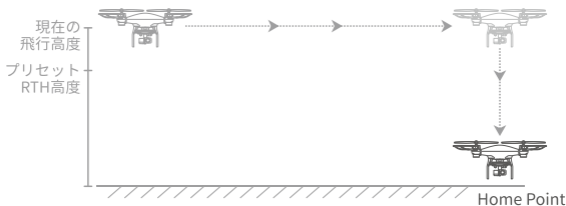
1. 現在の飛行高度 < プリセットRTH高度

ドローンはまずプリセットされた帰還高度まで上昇した後、ホームポイントの上を真っ直ぐに戻って飛行し、着陸します。



2. 現在の飛行高度 ≥ プリセットRTH高度

ドローンは現在の飛行高度でHome Pointの上空を直接飛行して着陸します。



もう一度  ボタンを押すと、RTHがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。


⚠️ ご注意：

- ① デフォルトのRTH高度は15メートルです。「Snaptain Atlas」アプリの設定内でリセットすることができます。
- ② リターン中は送信機のピープ音が鳴り続け、「RTHインジケーター」が点滅したままになります。

フェールセーフRTH

送信機接続がドローンと切断すると、自動的に「フェールセーフRTH」が発生します。ドローンは、独自のフライトシステムの制御下で、最後に記録された「Home Point」に帰還します。


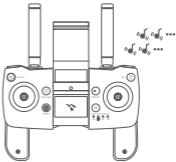
「フェールセーフRTH」は「スマートRTH」と同じプロセスです。

送信機をドローンに再接続すると、操縦者は  ボタンを押してRTHをキャンセルし、ドローンの制御を取り戻すことができます。操縦者が操作をしていない場合は、ドローンは帰還を続けます。

送信機接続がドローンと切断すると、GPS機能が利用できなくなった場合、ドローンは現在の高度から着陸するまでゆっくりと着陸します。

低電RTH

1. 「低電RTH」は、ドローンのバッテリー残量が少なくなるとトリガーされます。


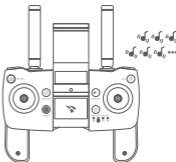
	
<p>アプリ上のドローンのバッテリー状況は2つバーで表示されます。</p>	<p>送信機から連続したピープ音が聞こえてきました。</p>

ドローンが20m以下のRTH距離まで飛んできた場合は、自動的にRTHがキャンセルされます。操縦者がどのように操作を行っても、ドローンは20mを超えて飛行はできません。

⚠️ ご注意：

低電RTHをキャンセルした後は、バッテリーの消耗が激しくない限り、再び低電RTHが発動することはありません。

2. ドローンのバッテリーが著しく消耗した場合に、「深刻な低電RTH」がトリガーされます。ドローンは自動的に戻り、最後に記録された「Home Point」に着陸します。

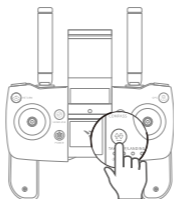
	
<p>アプリ上のドローンのバッテリー状況は1つバーで表示されます。</p>	<p>送信機から連続したピープ音が聞こえてきました。</p>

⚠️ ご注意：

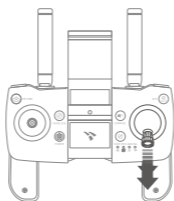
ドローンはRTH飛行中に障害物を自動的に回避することはできません。

着陸**モード1：**

 ボタンを押してドローンを着陸させます。

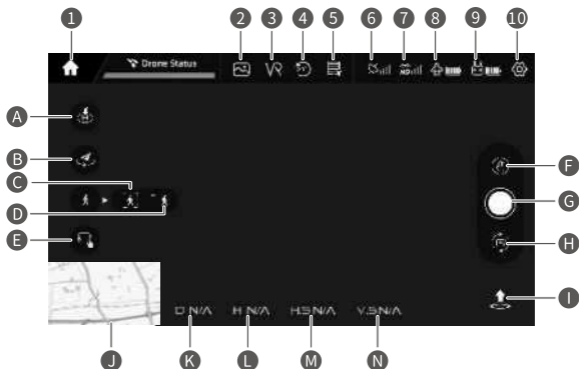
**モード2：**

ドローンのプロペラの回転が停止して着陸するまで、「右手スロットル」をゆっくりと後方に倒します。



APP操作ガイド

アプリの機能概要



- | | |
|----------------------|---------------|
| ① ホーム | ⑥ GPS信号 |
| ② メディアライブラリ | ⑦ Wifi信号 |
| ③ VRモード | ⑧ ドローンバッテリー状態 |
| ④ 反転画像 | ⑨ 送信機バッテリー状態 |
| ⑤ 飛行記録 | ⑩ 設定 |
| ① スマートRTH | ① 写真/ビデオモード |
| ② 目標点のサークルフライ(POI) | ② ワンキー離陸/着陸 |
| ③ マークと追跡 | ③ ライブマップ |
| ④ フォローミー | ④ 飛行距離 |
| ⑤ ウェイポイント (waypoint) | ⑤ 飛行高度 |
| ⑥ 写真/ビデオ用ジェスチャー | ⑥ 水平飛行速度 |
| ⑦ シャッター | ⑦ 垂直飛行速度 |

▶ **メディアライブラリ：**

タップすると保存されている写真や動画を見ることができます。

▶ **VRモード：**

VRをタップするとVRモードを有効にします（VR端末は提供しません）。

▶ **反転画像：**

🔄をタップすると画像が180度反転します。

▶ **飛行記録：**

すべての飛行記録はここで見るすることができます。

▶ **GPS信号：**

GPS衛星の信号を表示します。

▶ **Wifi信号：**

ドローンの制御を失わないように、Wifiの信号強度を確認してください。信号が弱くなったら(≤1つバー)、すぐにドローンに戻るよう、飛ばしてください。

▶ **ドローンバッテリー状態：**

ドローンのバッテリーの状態を確認してください。

▶ **送信機バッテリー状態：**

送信機のバッテリーの状態を確認してください。

設定

⚙️をタップして、ドローンを設定してください。



▶ Beginner Mode:

初心者の方は、フライトパラメータがプリセットされている初心者モードを使用することをお勧めします。

▶ Flight distance:

タップすると、ドローンと最後に記録したHome Point間の最大飛行距離をリセットします。

▶ Flight altitude:

タップすると、ドローンの最大飛行高度をリセットします。

▶ RTH Altitude:

タップすると、ドローンのRTH高度をリセットします。

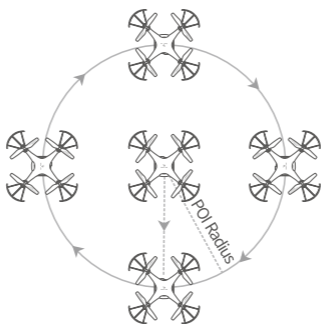
離陸


📍 をタップして、ポップアップウィンドウを右にスライドすると離陸します。



目標点のサークルフライ (POI)

飛行中、📍 をタップしてPOIサラウンドを有効にし、サラウンド半径を入力し、「YES」をタップしてサラウンドを開始します。ドローンは現在の位置を中心にして、周径を飛行し始めます。



飛行中にもう一度  をタップすると、このモードがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。

⚠️ ご注意：

* この機能は、ドローンのバッテリーが低下している場合には使用できません。

マークと追跡

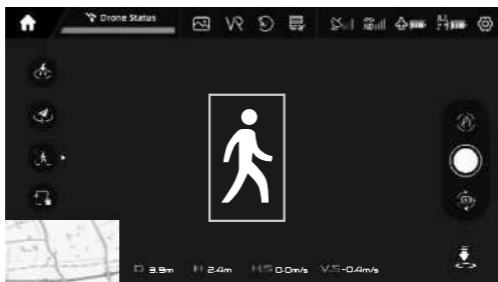
飛行中に「マークと追跡」を有効にすると、ドローンのカメラレンズは常にフレーム内の物体をマークします。十分な明るさの環境で動作するようにしてください。

ステップ1：

👤 をタップし、👤 をタップしてマークと追跡を有効にします。

ステップ2：

画面上の箱に入ったオブジェクトをタップします。チェックを入れると赤枠が緑色になります。



飛行中にもう一度👤 をタップすると、このモードがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。

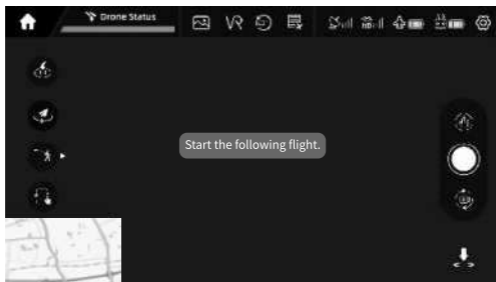
⚠️ ご注意：

- ① この機能を有効にすると、ドローンは、枠にはめられた物体から安全かつ効果的な距離を維持する必要があります。
- ② 選択された物体が暗い環境で移動している場合や、遮られている・視線範囲内から見えない場合、有効距離から外れている場合は、この機能は使用できません。
- ③ この機能は、ドローンのバッテリーが低下している場合には使用できません。

フォローミー

飛行中に「フォローミー」モードを有効にすると、ドローンのカメラレンズがモバイルデバイスに向けられ、飛行中に追いかけてきます。

📍 をタップし、👤 をタップして「フォローミー」を有効にします。



飛行中にもう一度 👤 をタップすると、このモードがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。

⚠️ ご注意：

- ① 「フォローミー」の機能は、GPS信号の影響で偏っている場合があります。この機能が有効になっている場合は、ドローンから安全な距離を保ってください。
- ② この機能は、事故防止のために周囲に障害物がない場合にのみ有効になります。
- ③ この機能は、ドローンのバッテリーが低下している場合には使用できません。

ウェイポイント

飛行では、「ウェイポイント」機能により、地図上のドローンの正確な飛行経路を設定することができます。📍 をタップしてウェイポイントのインターフェイスに入ります。

モード1：ウェイポイントの選択

ステップ1：

📍をタップして、地図上のいくつかのウェイポイントをタップします。リセットしたい場合は、🗑️をタップしてウェイポイントを削除します。

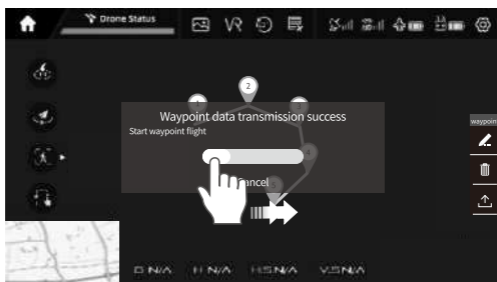


ステップ2：

📶をタップしてウェイポイントをアップロードします。

ステップ3：

ポップアップウィンドウ上で右にスライドすると、ウェイポイントに沿って飛行を開始します。



モード2：飛行ルート（軌道）を描く

ステップ1：

📍 をタップして、📍 をタップすると地図上に飛行ルート（軌道）を描くことができます。



ステップ2：

📍 をタップしてウェイポイントをアップロードします。

ステップ3：

ポップアップウィンドウ上で右にスライドすると、ウェイポイントに沿って飛行を開始します。

飛行中にもう一度 📍 をタップすると、このモードがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。

⚠️ ご注意：

* この機能は、ドローンのバッテリーが低下している場合には使用できません。

写真/ビデオ

📷 をタップすると写真が撮れます。

📹 をタップしてビデオの録画を開始し、終了するにはもう一度 📷 をタップして、メモリーカードとモバイル端末にビデオを保存します。

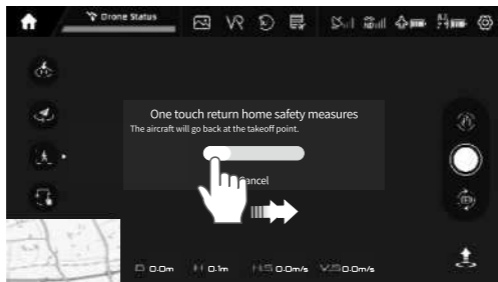
「メディアライブラリ」にアクセスして、保存された画像や動画を表示します。気に入った写真や動画を選んで、他の人と共有しましょう。

ジェスチャー写真/ビデオ

👆をタップして、この機能を有効にします。明るい環境では、カメラの前に立ち、右手で👉ジェスチャーを作ると撮影します。👏ジェスチャーでビデオの録画を開始して終了します。

スマートRTH

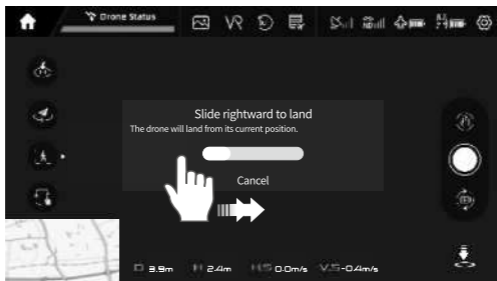
飛行中に、🏠をタップして「スマートRTH」を有効にし、最後に記録された「Home Point」にドローンに戻すようにします。ポップアップウィンドウで右にスライドすると、RTHが始まります。



飛行中にもう一度🏠をタップすると、このモードがキャンセルされ、ドローンへの操作を取り戻すことができます。

着陸

👇をタップしてポップアップウィンドウを右にスライドするとドローンが着陸します。



▶ トラブルシューティング

Q1.ドローンの4つのインジケーターが点滅しています。

- * ドローンと送信機がペアリングされていることを確認してください。
- * ドローンのバッテリーに十分な電力があることを確認してください

Q2.送信機の電源が入らなかった。

- * 送信機に十分な電力があることを確認してください。

Q3.屋外でドローンの電源を入れると離陸できません。

- * ドローンが十分に衛星を検索したことを確認し（ドローンのリアインジケーターが緑色に点滅していることを確認）、まだ衛星を検索していない場合は、ドローンが衛星を検索するのを待ちます。GPS信号が弱い場合は、他の場所でドローンを飛ばしてください。


Q4.ドローンのwifiに接続できないのはなぜですか？

- * ドローンのwifiに接続されているデバイスが1つだけであることを確認してください。

Q5.アプリを起動しても地図が表示されないのはなぜですか？

- * モバイルデバイスにマップアプリがインストールされていることを確認してください。
- * ドローンのwifiにインターネット接続がありません。ドローンのwifiを切断して通信データをオンにして地図をプリロードし、通信データをオフにしてドローンのwifiに再接続してください。


Q6.ドローンは室内では離陸できません。

- * ドローンはデフォルトでGPSモードに設定されています。室内で飛行したい場合は、ATTIモードに切り替えます（を長押し）。


Q7.フォロー機能がありません。

- * モバイルデバイスの位置情報サービスがオンになっていること、ドローンがGPSモードで飛行していることを確認してください。

Q8.ドローンの機首や機尾がわからない時に、ドローンを飛ばして戻らせるにはどうすればいいですか？

- * GPSモードがオンになっていることを確認し、 ボタンを押してRTHリターン機能をトリガーにすると、ドローンは自動的に飛行して戻るようになります。

Q9.フェールセーフRTHをキャンセルするにはどうすればいいですか？

- * 送信機が再びドローンの信号を受信した場合は、 ボタンを押して、フェールセーフRTHをキャンセルします。

Q10.ドローンのバッテリーが少なくなった時に、ドローンを飛ばして戻す必要はありますか？

- * バッテリー残量が少なくなったら、20m以内にドローンを飛ばしてください。電力が著しく低下すると、ドローンは自動的に飛行して戻ってきます。

▶ 仕様

ドローン		
動作温度	32°F to 104°F (0°C to 40°C)	
動作周波数	モデル SP600N: 2415-2475MHz	
送信電力 (EIRP)	モデル SP600N: 2.4GHz<14dBm	
ジンバル		
制御可能な範囲	ティルト: -90° to 0°	
リモコン		
動作周波数	モデル SP600N: 2450-2475MHz	
送信電力 (EIRP)	モデル SP600N: 2.4GHz<18dBm	
USBケーブル		
	ドローンバッテリー用	送信機用
入力	5V \equiv 2A	5V \equiv 2A
出力	4.2V x2 \equiv 1.5A	5V \equiv 1A
定格出力	12.6W	5W

SNAPTAIN SUPPORT

JP support.jp@snaptain.com



www.snaptain.com



[@snaptainofficial](https://www.facebook.com/snaptainofficial)



[@snaptain_official](https://www.instagram.com/snaptain_official)